



Vol. 33 No. 1
2016. JUN



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・水原 寛
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷敷 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jpn.org

一地域包括ケアシステムと他職種連携一

会長 高橋 敏弘

国は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指している。一口に地域包括ケアと言っても、人口、高齢化率、社会資源は地域差が大きく、個々の地域の特性、実情に応じた地域包括ケアの在り方を考えなくてはならない。そのためには医療・介護の連携はもとより、国民の意識改革も含めた総合的な取り組みが必要である。

介護保険の予防給付が市町村事業に移行となり、平成30年にはすべての市町村が事業を行うことになっている。秋田県の多くは平成29年度中の移行の予定であるが、地域ケア会議や認知症初期集中支援チーム、介護予防事業等への作業療法士の参画に向けて県士会としても理学療法士会、言語聴覚士会と連携して準備を進めているところである。

この地域包括ケアシステムを実現するためには、地域における多職種連携が重要である。特に病院で働いているセラピストは、地域の社会資源をしっかりと把握し地域で行われているリハの目的と現状に合わせて申し送る必要がある。また介護福祉士やヘルパー等介護職との連携も求められる。

日常的に様々な場面で連携という言葉が使われ、文献や講演等でも連携の重要性が述べられている。この当然のように使われている連携という言葉だが、実際には何を行うと連携になるのだろうか。あえて連携という言葉を使わずに説明するとすれば、「患者や利用者の目標を共有し、目標達成のために自分がすべきことは何か自覚し、連携する相手との役割分担を明確にし、必要な情報を吟味し、連携すべき相手は誰で、その情報を共有するか交換するのかを判断し、情報を伝達するための具体的な手段（電話、書面、面会、会議等）を用いて実行し、自分の役割を遂行すること」と言えるのではないだろうか。

連携を実行するためのポイントとして私が考えていることを以下に述べてみる。基本は「顔の見える連携」である。

- ・一方通行にならない。（自分の思いだけを伝えない、お互いにメリットがあること）
- ・相手の立場になって考える。（今自分が思っていることが相手の立場に立った時に本当に同じよ

うに思うか,同じようにできるか)

- ・情報量が多くなり過ぎない。(必要なことを,要点をまとめて,「過ぎたるは及ばざるがごとし」)
- ・専門用語を多用しない
- ・わからないことは素直に聞く.
- ・自分でやるべきこと,任せるべきことを見極める.
- ・相手の顔や声を知る。(Face to Face)
- ・相手のことを悪く言わない。(後出しジャンケンに勝って当然)
- ・連携する相手の仕事の理解を深める。(自分が直接関わらなくても知識を持つ)

また,介護職員や,介護士等福祉職のケアマネ等は私たちが思っている以上に医療職に高いハードルがあると感じていることが多い.福祉職が高いハードルを越える努力をしているように,医療職はハードルを下げる努力が必要であると考えている.

学会記 第 25 回秋田県作業療法学会を終えて

大湯リハビリ温泉病院 水原 寛

去る 4 月 23 日 (土) に鹿角市にあるホテル鹿角を会場に,120 名を超す会員の方々が集まり,第 25 回秋田県作業療法学会を無事に終えることができ,実行委員一同感謝申し上げます.

前回の鹿角開催から 7 年を経て,25 回目という四半世紀の節目に開催できたことは喜ばしく感じております.

さて,開会式の挨拶でも少しお話させていただきましたが,皆様もご承知の通り,近年の医療・福祉・介護・保健の現場は,年々厳しさを増してきております.しかしながら,私たちが目の前にしている,患者さんを含め対象者は,大きく変わることなく,自分達の目の前にいる事と思います.

その方たちに,私たちが出来ることは何でしょうか?常に自分達を見つめなおし,考え,正面から向かっていかなくてはならないのではないかと感じております.行政や法律が変わったとしても,私たちの目の前にいる人達はなんら変りの無いことで,嘆いている暇はないのだと思います.

今回,一般演題では,10 演題が集まりました.それぞれ,臨床の場で苦勞されて,研究してきた成果を発表していただきました.

会場では,活発な意見交換がなされたことは,日々思い悩み,共感できる内容の発表が多かったのではないのでしょうか.

定期総会後には,生涯教育部と 3 士会連携会議の方からも,大切な情報を発信していただきました.今後地域における,私たちの課題も大きくなってきますが,それに応えられるような体制作りが,必要な時期になっている事を感じたことと思います.

また,特別講演として「生活行為向上マネジメントの実践」と題して,リハビリテーション天草病院 認定作業療法士 高橋啓吾先生をお迎えして,講演していただきました.

他職種との連携はもとより,目の前にいる方をどのように導くことが,最善なのか,マネジメントする能力は今後さらに求められてくることと思います.単なる,紙のやり取りではなく,生きた臨床とマネジメントがあって,現実的な生活行為の向上につながるものと思っております.

懇親会では、学会参加者の約半数の会員が参加していただきました。情報交換の場としてだけでなく、新人さんの紹介や余興で大いに盛り上がりました。その勢いは2次会にまで波及し、宿泊込みでの学会の醍醐味として楽しむことが出来ましたことを、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、学会は実行委員だけでは成立しませんし、発表者や講演者がいても成立しません。多くの会員が参加し意見交換があつて初めて成立します。

来年度の学会も、多くの会員が研鑽できる場として、皆様にお会いできることを期待し、第25回秋田県作業療法学会の報告とさせていただきます。



印象記 第25回秋田県作業療法学会に参加して ～事例報告を通じて～

男鹿みなと市民病院 一ノ関 大将

平成28年4月23日、春を感じる陽射しの中で第25回秋田県作業療法学会が開催されました。今までは学会に聴講者として参加していたのですが、今回は初めて一般演題を発表し様々なことを感じることができたため、私にとっては特別な学会となりました。そこで、私が本学会で一般演題を発表した経緯と、発表して感じたことを振り返らせて頂きます。

話は就職当時に遡ります。卒業後すぐに作業療法士のいない病院に就職した私は作業療法士としての自分に不安を感じていました。それでも当院での業務や先輩からの指導、研修や文献での勉強を通じ経験が増え、徐々に自信がついていきました。その一方、自分の考え方、知識、技術などは経験年数に見合うものなのか、作業療法士としての視点が不足しているのではないかと、今の自分は作業療法士としてどうなっているのか、今後の自分に必要なことは何かといった不安は減ることはなく、むしろ大きくなりました。

そんな中、今回事例報告させて頂いた **Sauve-Kapandji** 手術を施行した患者様を担当しました。この手術に関したリハビリについての報告がなく、患者様の希望を叶えるためにはどのような介入をするべきかを、改めて深く考える機会が得られました。介入は手術の情報やこれまでの知識と経験を頼りにし、そして前述の不安と向き合いながらのものでした。

介入が一段落した頃に、秋田県作業療法学会の演題が不足しているという知らせを見て、一般演題発表者として参加したいと強く思いました。印象深かった患者様との関わりを通じて自分を振り返り、様々な作業療法士の御意見・御指導を頂くことで成長したかったからです。また、事例報告により、学生時代や就職後お世話になった先生や、作業療法士がいない職場に行く自分を心配してくださった方々への自身の近況の報告をしたいということも考えました。

しかし、作業療法士は私のみで発表のいろはも発表に至るまでの経緯もわからないため、発表するかしないかは悩みました。結局、発表することを決めましたが既に申込み締め切りまであと数日。急いで職場の許可を得て、患者様と連絡を取り、タイトルを考えると、とても慌ただしかったことを覚えてい

ます。

その後、抄録作成にとりかかりましたが、伝えたいことが多く情報を選んで指定の字数に収めることが難しかったです。それでも、査読してくださった先生方や職場の方々の御指導を頂いて、また編集することで抄録が完成していきました。これまでも、患者様への介入内容について振り返っていましたが、介入の良かった点や他にやり方があったのではないかと、もっと早く気付くべきことがあったなどの反省点が、抄録作成を通じて今までとは比べ物にならないほど浮かんできたことが印象深く、形に残す大切さを実感しました。

スライドでは、抄録に書くことができなかった内容の補足も含めて、分かりやすく伝わるように心掛けましたが、7 分間で伝えたいことを伝えることの難しさを実感しました。一旦の完成後に職場内の報告で指導を頂き、発表前日まで修正を繰り返しました。当時は、発表の準備はやるだけやっただけと感じたのですが、発表を終えてからはもっと分かりやすくできなかったか、不要な部分は無かったかという反省が残っています。それでも発表を通じて、各先生方から御意見や御質問を頂け、経験豊富な先生方の知識、視点、考えを学ばせて頂くことができました。この経験により、多くの知識と今後の課題を得ることができ、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。

発表後、会場で様々な方とお話をする機会もありました。上記のように反省点が多い発表でしたが「頑張ったね」、「良かったよ」等の感想を頂くこともできました。かつて、私を心配してくださった方々を、さらに心配させる事態にならずに済んで、ほっとしています。

特別講演では、生活行為向上マネジメントの臨床実践に関連した話を聞かせて頂きました。業務中は時間が足りず実践経験が不足していましたが、MTDLP を実践する際のポイントについて指導もあり苦手意識が軽減されました。

事例報告を通じて様々なことを考えましたが、一番感じたのは周囲の方々への感謝です。患者様を始めとして職場の方々、突然の相談に乗ってくれた友人たちの御協力と応援で事例報告が完成し、御指導してくださった先生方、学会に関わった皆様のおかげで発表が実りあるものになりました。この場を借りて深く感謝申し上げます。この学会を通じて今までの不安が解消されて、今後の課題も見えてきたので、この気持ちを忘れずにまた成長できるよう頑張ります。

印象記 第 25 回秋田県作業療法学会に参加して

秋田県立脳血管研究センター 丹羽 歩

平成 28 年 4 月 24 日に鹿角市で第 25 回秋田県作業療法学会が開催されました。昨年の学会は作業療法士として働き始めて数週間という時期でしたので、学会の雰囲気や発表、活発な質疑応答などに圧倒されたと同時に、気持ちが引き締まったことを思い出します。1 年の臨床経験を経て 2 年目として参加するにあたり、他の病院や施設で働く作業療法士が日頃考えていることや行っている作業療法への理解を深めたいと思い参加しました。

高橋啓吾先生による特別公演は「生活行為向上マネジメントの臨床実践に向けて」という題で行われました。生活行為向上マネジメント（以下 MTDLP）実施にあたり、必要な技術や考え方を「聞き取り」、「アセスメント」、「プラン」に分けて説明して頂きました。聞き取りは、合意目標に至るまでの過程が大事であり、対象者の本音を探ることが求められるとおっしゃっていました。適切な予後予測があるからこそ目標の形成が可能となり、それに沿って治療や支援が開始されますが、専門職としての技術や他職種と連携する広い視野が必要であるということを学びました。

私自身、対象者から生活行為目標を聴取する過程に悩むことが多いです。当センターでは、対象者へ必要としている生活行為を聞き取り、目標や今後のリハビリの内容等をシートにまとめてセラピストと対象者間で共有するように努めています。面接では、間の取り方や距離感、話し方など自分の関わり方が合っているのかと慎重になります。面接を通して対象者の本音を少しでも聞き出すことができたり、目標を再確認できたりと有意義な時間になったことも多いですが、面接の進め方や説明が不十分で時間がかかってしまったり、語ることをあまり好まないような対象者に負担をかけてしまった経験もしばしばあります。

一対一の面接技術や本人の希望を察する洞察力は勿論必要ですし、本人をよく知る人からの情報収集など、状況に合わせて対応していく能力が求められると再認識しました。またアセスメントシートを用いることで情報が整理され、現状や自分の行っている内容が客観視できるので上手に活用していきたいと感じました。今年度のMTDLPの研修日程が発表されました。対象者の方にとって有益な支援となるように、私自身も発表できればと考えています。

今回は大学の同級生などの若いセラピストが発表している場面を聞き、非常に刺激を受けました。疑問を持ち、苦労しながら臨床での経験をまとめてこのような場で発表すること自体が素晴らしいことだと感じます。日々の生活や仕事では習慣として行動することが多く、私自身も疑問を持つことが少なくなっているように思いました。考えること・行動することを止めず、日々の生活を積み重ねていきたいと感じました。初心に戻り、その考えに気付くことができた一日となりました。

シリーズ「作業療法と生活考」NO. 63

「脳を鍛えるには運動しかない」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

皆様はこの題名に惹かれないですか。私は、リハビリテーションに携わる者として惹かれるものがありました。今回はこの本を紹介致します。NHK出版から2009年の出版された本で、著者はジョン・J・レイティ（訳 野中香方子）です。全米でベストセラーになった本です。帯には、最新科学で分かった脳細胞の増やし方と書かれています。

私自身も物忘れや覚えるのが遅い、すぐに名前が出てこない等の感じる年齢になり、脳細胞が増えるとのタイトルは、惹かれるものがありました。また、作業療法支援でも脳機能に働きかけることは重要な支援であり、ヒントになるかもしれないと思いました。

内容は、アメリカ・イリノイ州のとある学区の高校生に、朝の授業の前に「0時間体育」を試み始めたところ、参加する生徒の成績が上がったこと。しかも、0時間目の直後に受けた1時間目の教科に、特に顕著な効果が現れたと述べています。これが運動と脳の関係にあるとしています。私の息子が通っていた小学校でも、朝授業の始まる前にグラウンドを走っていたこと。また、私が小学校時代も朝の授業前や休み時間は、走ったり、サッカーをしていたりしたことを思い出しました。しかし、中学校や高校ではやっていませんでした。先日、ワークショップがあり、会場まで駅から2kmほどあったので歩いていったのですが、頭がスッキリしているのを感じたことがありました。運動す

ると気分もスッキリすることは経験で分かっていますが、なぜそうなるのかは分かっていませんでした。

本書では「運動と脳」の関係に神経科学の視点からメスを入れ、運動するとなぜ学習能力が上がるのか、また、ストレ、不安、うつ、ADHD、依存症、ホルモン変化、加齢といった人間の生活・人生全般に影響を及ぼすのか、運動がいかに脳を鍛え、頭の働きを取り戻し、気持ちを上げるかを解き明かしています。

章立ては、第1章 革命へようこそ—運動と脳に関するケーススタディ。第2章 学習—脳細胞を育てよう。第3章 ストレス—最大の障害。第4章 不安—パニックを避ける。第5章 うつ—気分をよくする。第6章 注意欠陥障害—注意散漫から脱け出す。第7章 依存症—セルフコントロールのしくみを再生する。第8章 ホルモンの変化—女性の脳に及ぼす影響。第9章 加齢—賢く老いる。第10章 鍛錬—脳を作る です。

著者は、精神科の医師で、多くの患者を見えています。その中で、体を動かさなくなった現代の生活に危機感を抱いたようです。一般的に運動するのは、体の健康のためということが多い。しかし、彼は運動の第一目的は、脳を育て良い状態に保つことだとしています。そのために、人類の進化過程にまで触れています。

また、ベルント・ハイリンヒの著書「アンテロープを追う：走ることで生活について動物がわたしたちに教えてくれること」の中で、人類を「持久力のある捕食者」と評していることを指摘しています。そして、我々の足や体の構造は、長時間歩くこと適していると述べています。長時間かけて採集や狩猟する動物はほとんどいない。人類の特徴としての捉えかたはユニークです。

人は動くようにできています。心身に動きを働きかけるのもリハビリテーションです。廃用性症候群、ロコモティブシンドローム、認知症の予防では、運動の果たす役割は大きいことが分かっています。啓発本にも近いですが、時間のある時に是非とも読まれることをお勧めします。また、関連する本として「GO WILD 野生の体を取り戻せ！」(NHK 出版 2014 年) も一緒に読むと、もっと面白いです。

「星新一ショートショートセレクション

書評

(5) 番 号 を ど う ぞ 」

著者：星新一 出版：株式会社理論者 価格：1300 円

介護老人保健施設 あいぜん苑 佐藤 美香子

2013 年、オックスフォード大学が発表した「雇用の未来—コンピューター化によって仕事は失われるのか—」という論文をご存知だろうか？その論文によると、『今後 20 年の間でアメリカの仕事の約半分は、コンピューターに取って代わられるだろう』と述べられている。現在でも既に、受付やレジ業務などは人の手ではなく機械で行っている場面を見かける。技術の進化により、コンピューターに仕事が奪われるような時代が近づいていることが受け取れる。

さて、みなさん、作業療法士はどうだと思いますか？作業療法士はコンピューターの影響を受けにくい職業、第6位となっていた。ちなみに、PTやNsは影響を受けにくい職業トップ20に入っておらず、Dr（内科・外科）は15位だった。つまり、作業療法は人が行うことに意義があるということだろうか。

今回、私が書評として選んだ本は、SF作家で知られる星新一のショートショートセレクションから「番号をどうぞ」である。星新一は、環境、経済、原子力、ゴミなどの現代社会の問題と重なる内容を、ユーモアを交えて小説にしている。短い文章ながらも、様々な“気づき”を与えてくれる星新一の作品が私は好きだ。また、短編集であるため、短時間で読めてしまうのも魅力の一つだ。

物語の舞台はクレジットカード、身分証、個人番号など『番号』が最も重要な社会で、信頼や安全も全て番号に委ねられている未来社会である。番号が分からないと何もできない世界なのだ。主人公はうっかり湖に落ちてしまい、この世の何よりも大切な番号が書いてあるカード類すべてを、湖の底に落としてきてしまった。10桁以上になる番号を覚えているはずがない。主人公は困り果て、様々なところに助けて欲しいと頼みに行く。しかし、どこに行っても「番号をどうぞ」と言われてしまう。コンピューター化が進んだこの物語の世界では、どんな困った人に対しても「番号をどうぞ」「番号が分からないと何もできません」と親切にはしてくれない。最終的には警察に身元が引き渡され、指紋から個人を特定し、主人公は番号に支配される便利で快適なコンピューター社会へと戻された。確かに、コンピューターで番号を基に管理していると確実であり、間違いはなく安心だろう。しかし、湖に落ちてずぶ濡れになり、空腹でへとへとな一般男性を助けないこの社会は、果たして安心して快適な社会なのだろうか？主人公は、コンピューター社会へと戻って幸せだったのだろうか？

皆さんはどのような感想をもっただろうか。コンピューター化が進んだ現在の日本と、この物語の世界を重ねながら読んだ方もいるのではないだろうか。実際に私もコンピューター化の恩恵を受けている国民の一人であり、もしスマートフォンを忘れて外出しようものならば、一日中落ち着かない。「快適で便利で効率的な社会になってほしい」と思う反面、星新一の作品を読むことで、「果たしてそれでいいのだろうか？」と再度考えさせられる。

前述したように、アメリカで作業療法士はコンピューターの影響を受けにくい職業、第6位だった。果たして文化や価値観の異なる日本では何位になるのだろうか。自分の行っている作業療法は、人間がやることに意義があるかを今一度考えたい。コンピューターで代替できるような仕事では、将来消えてしまうかもしれない。私はクライアントの人生が“よりその人らしく”“幸せなもの”になるように支援したいと思っている。人間はコンピューターのように完璧ではない。しかし、「やはり作業療法は人がやることに意義がある」と、このコンピューター社会で国民から評価されるべきである。

……とそこまで大袈裟な話に至らずとも、「この人が一緒に良かった」「この人のおかげで望む生活が出来た」と思って頂けるように、日々作業療法という仕事に取り組みたい。10年後も、20年後も、作業療法士として働きたいと思った。

最後に、拙劣な文章ではありますが、最後まで読んで頂きありがとうございました。

職場紹介

横手興生病院 佐藤 未希

皆さん、こんにちは。「横手焼きそば」で有名な横手市にあります、社会医療法人興生会 横手興生病院についてご紹介させていただきます。当院は横手駅から車で10分程の場所にあり、桜の名所である横手公園や夏の送り盆祭り・冬のかまくら等伝統あるお祭りの会場にも近いため、横手の四季折々の姿を楽しむことができます。

当院では、様々な精神疾患を抱える患者さんを対象に、急性期から回復期・維持期、さらに退院後の地域生活を含めた作業療法を展開しています。作業療法導入の際に患者さんと作業療法士が面接を行い、ご本人の回復のペースに合わせ、症状の安定や生活リズムの調整・対人関係の改善等、作業療法での目標を一緒に立て、共有しています。日々の作業療法では、手工芸や脳トレなどの個別OT、レクリエーションや体操プログラム等の集団OTを実施しています。天気の良い日は院内の中庭でスポーツをしたり、花や野菜を育てる園芸活動も行っています。はじめはプランターでの野菜作りが中心でしたが、農業経験豊富な患者さんを先生とし、スタッフも教わりながら毎年少しずつ本格的な畑ができてきています。また、月1回行われる外部講師をお招きしての書道教室や押し花教室もとても人気があります。

地域移行に向けた取り組みとして、精神保健福祉士や病棟看護師と連携した退院前準備プログラムを企画し、横手市内にある施設・作業所・デイケアへの見学外出や小グループでの調理を行っています。

季節を感じられるプログラムにも力を入れており、横手市内への外出の他、スタッフ企画の「季節のイベント」を数多く行っています。昨年度は、春は中庭での病棟対抗「ミニ運動会」、夏は園芸で収穫した野菜を使った「カレーパーティー」、秋は日々のOTで作った作品の展示や体験コーナーを設けた「芸術祭」、冬は伝統的な冬祭り「ぼんでん」を院内で体験するイベントを実施しました。毎回準備の段階から患者さんとスタッフが協力しながらイベントを作り上げています。書道の得意な方に看板の字を書いてもらったりと、患者さんの持つ強みを様々な場面で活かすことができ、またスタッフも知らない患者さんの新たな一面を発見できたりと、患者さんだけでなくスタッフにとっても特別な時間になっていると感じています。今年度もさらにパワーアップしたイベントを実施できるよう、少しずつアイデアを考えているところです。

当法人では、病院だけでなくデイケア・就労支援センター・介護老人保健施設でも作業療法士が活躍しております。入院生活から地域生活へスムーズに移行できるよう従来のプログラムを見直し、スタッフが充実していることを強みにしながら、様々な視点やアイデアを活かした新たなプログラムを今後充実させていきたいと考えています。



精神科をとりまく環境も変化し、入院中心の治療から地域ケアを重視する流れになっています。患者さんの退院後のフォローや地域生活でのさらなるステップアップに向けた作業療法の可能性を追求し、今後も他職種や地域と連携しながら、より質の高いアプローチができるよう頑張っていきたいです。お読み頂きありがとうございました。



編集後記

今年の秋田県作業療法学会は鹿角市で開催し、当日は多くの先生方が参加され、無事に終えることができました。開催するにあたり事務局として協力してくださった先生方、本当にありがとうございました。学会の中で特に印象的だったのが、高橋先生の特別講演でした。利用者様や患者様のニーズを聞くと、大半は建て前として話す方が多く、本音の中々話さないことや、患者様の目標はそのつど変わり、トイレに行きたいと言っている中でも、他にも色々やりたいことを秘めていること等を聞き、改めて考えさせられることが多いものでした。また、その方の本音を知っていくには、信頼関係が重要だということも実感しました。普段の臨床の中で、自分がどれだけその方を一人の人として見ようとしているのか、知ろうとしているのか思い返し、その方の話を「聴く」ことの大切さを知った今日この頃です…。

編集担当(yu-min)

一般社団法人秋田県作業療法士会 入会の案内

秋田県作業療法士会では、県士会主催の研修会・学会等への参加は、正会員でないと参加資格が得られません。県士会正会員になるためには、一般社団法人日本作業療法士協会への入会も必要となります。

どちらも未入会の方は日本作業療法士協会と秋田県作業療法士会双方への入会をよろしくお願い致します。

尚、日本作業療法士協会入会に関しては、こちらの URL からお願い致します。

<http://www.jaot.or.jp/nyukai/seikaiin.html>

秋田県作業療法士会入会に関しては、県士会 HP の各種届出用紙をダウンロードして必要事項を記入後、県士会事務局まで郵送してください。

秋田県作業療法士会 HP <http://akita-ot.jpn.org/>

県士会事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面宇屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
一般社団法人 秋田県作業療法士会事務局

広報部から

・会員異動の際は、お早めにお知らせください。

県士会ニュース「きりたんぽ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス has80970@snow.odn.ne.jp です。ご協力よろしくお願い致します。

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026 号 **有限会社バイオテック**

代表取締役 飯塚清美

〒010-0041 秋田市広面字碓 80-1 TEL018-837-0161 FAX018-837-0162

(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社
千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティモ NR SAKAIMEDY

actimoNR

早期活動を促す
新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社
www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL: 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL: 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL: 024-927-0231